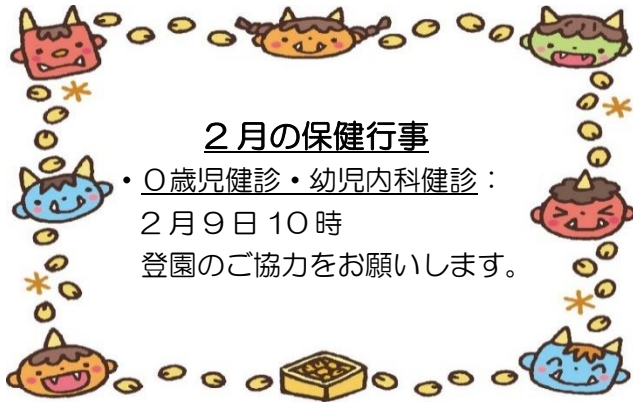




# ほけんだより

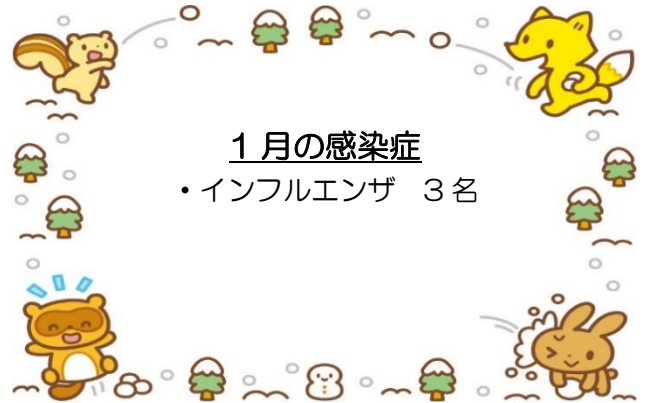
令和5年度2月1日発行  
両国・なかよし保育園  
看護師

厳しい寒さの中でも、元気いっぱいな子どもたち。でも、低温・低湿の冬は、かぜウイルスが大好きな季節です。かぜを寄せつけない丈夫な体作り、環境作りに気を配り、寒い冬を元気に乗り切りましょう。



## 2月の保健行事

- ・0歳児健診・幼児内科健診：  
2月9日10時  
登園のご協力をお願いします。



## 1月の感染症

- ・インフルエンザ 3名

## 冬の感染症

寒く乾燥する冬は、ウイルスが元気になる季節です。冬の感染症は呼吸器に症状が出やすいものが多いのが特徴です。十分に注意し、冬を元気に乗り切りましょう。

### 肺炎

#### <原因>

ウイルスや細菌が肺に入り込み炎症を起こした状態。インフルエンザや風邪をこじらせてかかることが多い。

#### <症状>

かぜの症状のあと、4日以上高熱が続き、痰が絡んだ咳をしている。

#### <対応>

レントゲンをとって肺炎かどうかを判断する。抗生剤を服用して治療する。

### クループ症候群

#### <原因>

パラインフルエンザウイルスなどに感染し、咽頭に炎症を起こすことで発症する。

#### <症状>

発熱や喉の痛みから始まり、犬が吠えるような甲高い咳が出る。呼吸が荒くなり喘鳴を伴う。

#### <対応>

吸入で消炎剤などを吸入して治療する。家庭内では水分を十分に与え、加湿器等で室内の乾燥を防ぐ。

### RSウイルス

#### <原因>

RSウイルスの感染によって起こり、集団流行しやすい感染症。特に1歳未満の乳児がかかりやすく、気管支炎や肺炎を起こす。

#### <症状>

鼻水や咳などの症状で始まり。呼吸時にヒューヒュー・ゼーゼーといった音が出る。重症化すると危険な状態になることも。

#### <対応>

今のところRSウイルスに対する根本的な薬はない。早めに受診し、こじらせないようにすることが第一。

### 子どもの肌が荒れやすいワケ

子どもは、肌のバリア機能が未発達なので、乾燥すると、そのバリア機能がどんどん失われるため、荒れていくのです。肌を保護するバリアがない状態なので、乾燥肌が進むと、あかぎれや発疹など、さまざまな皮膚トラブルが出やすくなります。

### 冬のスキンケア

冬は空気が乾燥し、皮膚がかさかさとして荒れ、かゆみが出ることがあります。園でも日常的にお子さんのスキンケアに気を配っていますが、ご家庭でも、外出から戻ったときやお風呂上がりなど、保湿ケアを心がけていただくよう、お願いします。また、手洗い後は、水滴をしっかりとふき取るように習慣付けていきましょう。

